

海外の話題

シンガポールの車事情

農林中央金庫 シンガポール支店長 和田 透

インドネシアのジャカルタやタイのバンコクなどの東南アジアの主要都市に出張すると、その交通渋滞のひどさに辟易とさせられることが多い。特に朝夕のラッシュ時や雨天の時などは、車で移動した場合、目的地までかかる時間を予測することは非常に難しい。それに比べるとシンガポールの交通事情は、非常に快適である。さすがに街の中心では多少の渋滞が起こることはあるものの、基本的に道路はスムーズな流れとなっている。

国土面積が東京 23 区ほどの広さしかないシンガポールでは、交通渋滞を避けるため、自動車所有者に COE (Certificate Of Entitlement、車両所有権証書) の取得を義務付け、その発行枚数をコントロールすることにより国内の車両台数を調整している。本制度は 1990 年から導入されているもので、当時のベルギーの制度を参考にしたものだそうである。COE は 10 年の有効期限つきのため、中長期的な発行枚数の計画や調整が容易となっている。2008 年に発表された陸上輸送マスタープラン (Land Transport Master Plan) に基づき、発行枚数の伸びは徐々に抑制され、足元では年 0.5% まで抑制されている。

車両の COE 価格は、排気量や用途等により 4 つのカテゴリーに分けられ、月 2 回の入札で決定されている。経済状況や自動車ローンの金利、発行枚数の増減等により、COE 価格は大きく変化する。例えば排気量 1600cc 以下の車両の COE は、2007 年に 1 万 4 千シンガポール・ドル (以下、Sドル)、現在の為替レートで 110 万円程度であったが、グローバル金融危機の影響で 2009 年初頭に 5 千 Sドル (40 万円程度) まで下落し、その後の危機からの回復の過程では、発行枚数の伸びが抑制されたこともあり急速な上昇に転じ、2013 年 1 月に史上最高値となる 9 万 1 千 Sドル (740 万円程度) まで上昇した。その後は、過熱感を懸念した政府による自動車ローンの頭金規制の強化等もあり下落し、現在は 6 万 3 千 Sドル (510 万円程度) となっている。

また、シンガポールで新車を購入する際には COE のほかにも輸入税や登録料等が車両価格の 100% 以上かかるため、例えば今現在、車両価格 100 万円の新車を購入しようとする COE 取得を含めて、なんと全部で 700 万円以上かかる計算となる。かくして、シンガポールでの車所有はコスト面で非常にハードルが高く、周りを見ても日本人駐在員で車を自己所有している人はあまり見かけない。確かにシンガポールは国土も狭く、安価な公共交通機関が発達しており、タクシー料金も低く抑えられているため、あまり車を所有する必要性を感じないことも理由ではあるが。

ちなみに 2013 年の新車登録メーカーの 1 位はメルセデス・ベンツであり、2 位は BMW である。また街中では、ポルシェやフェラーリなどの超高額車も多く見かける。車の所有が一部の高額所得者に限られているためであろうか、それとも車両価格以外のコストがそこまで高い以上、高額な車でないと思つて意味がないと考える人が多いせいであろうか、車の所有者に聞いてみたいところである。